THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN

日本数学会

http://mathsoc.jp/

ごあいさつ

日本数学会　理事長
小薗 英雄

President
Hideo Kozono

時代の潮流と日本数学会

大学を取り巻く環境は、この20年間で大きく変遷しました。90年代前半に大学設置基準の大綱化に伴って教養部が廃止され、大手の国立大学を中心に大学院重点化が実施されました。それに伴って大学院博士後期課程の学生定員が増員されましたが、博士号取得後のポジションが問題となり、ポストドクター等一万人支援計画が打出された訳です。その後、2004年に国立大学は独立行政法人化を経て、従来の国家公務員の総定員法の枠組みに縛られることなく、任期付き教員ポストを大幅に増加しました。実際、独法化当時、護送船団方式からの脱却が声高に叫ばれ、それ以降はCOEやWPI等に象徴される様に、私立大学をも巻き込んで、各大学が競争的外部資金を獲得することを余儀なくされ、今日に至っています。特に現在は、法人化以前のような任期のない助教や助手のポストは僅少で、若手研究者の多くは、まずこれらの競争的外部資金によるポストドクターポジションに就き、3年から5年のスパンで任期のない職を見つけるということが一般的となっています。

このようなここ10年以上続く厳しい大学でのアカデミックポジションの状況ではありますが、平成27年度文部科学省委託事業「数学・数理科学を活用した異分野融合研究の動向調査」の事業の一端として同年度に日本数学会が実施したアンケート調査によれば、140人の回答の中、数学・数理科学関係の専攻で学位取得後に非アカデミックに進んだ者は12%（17名）に過ぎませんでした。一方、アメリカの状況は、同じく非アカデミックを進路に選んだ割合は30%でした。少子化が加速する中で、今後大学の規模は縮小に向かうことは想像に難くありません。それ故、数学・数理科学で博士号を取得した若手研究者は、アカデミックポジションだけではなく、企業に職を求めることも将来の選択肢として考えて欲しく思います。

日本数学会では、平成27年度から社会連携協議会を発足させ、数学・数理科学の研究者・大学院生と産業界との出会いの場を提供するイベント「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」を開催し、人材育成事業にも貢献しています。この春に九州大学IMIが幹事拠点となって文部科学省委託事業（H29～34年度）「数学アドバンストイノベーションプラットフォーム（AIMaP）」が採択されたことはとても喜ばしいニュースです。同委託事業では諸科学・産業と数学・数理科学研究者との協働による研究の推進が強く打ち出されています。そこで、ジャーナルや数学通信などの出版事業、年会・総合分科会、MSJ-SIなどの学術的会合の開催事業とそれに付随する学会賞の表彰事業、国際数学連合をはじめとして海外の数学関連の学術団体との国際交流事業等に代表される日本数学会の従来の活動に加えて、数学と異分野との融合で新たな学問領域を創設し、産業界にも多くの人材を輩出する事業にも貢献することが今まさに本会に求められていることではないでしょうか？

このような現代の数学を取り巻く潮流の中で微力ながらも尽力したく思います。皆さまのこれまでのご支援、ご援助に厚くお礼申し上げるとともに、より一層のご指導をお願い申し上げます。

日本数学会のあゆみ

江戸時代に日本で独自の発展をした和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し消化したことが知られています。

日本数学会の前身である東京数学会社の創立者達は、時代の息吹の中で諸学の基礎としての数学が重要であることを認識し、欧風の数学の導入に努力しました。それから130年、日本における数学研究は目覚ましく発展し、3人のフィールズ賞受賞者および第1回ガウス賞受賞者を輩出するなど、今日では確固とした国際的評価が確立しています。

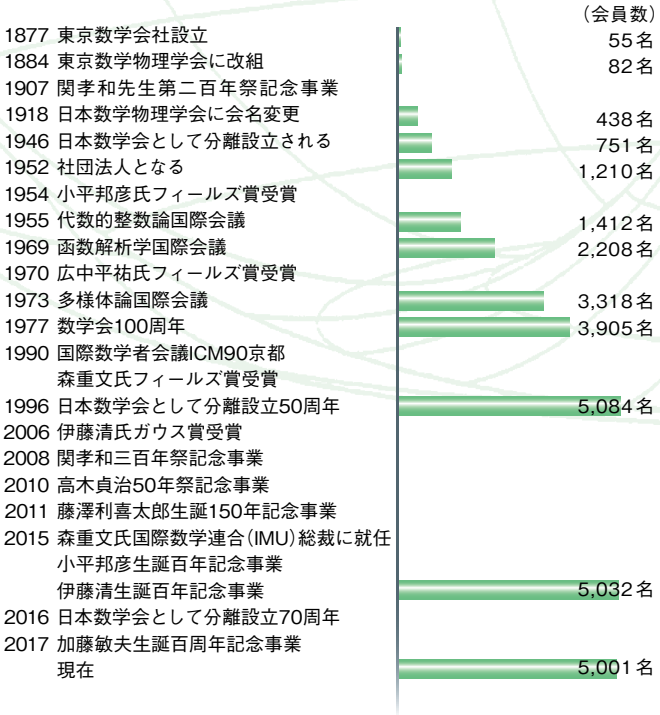
故 小平邦彦 氏

広中平祐 氏

森重文 氏

故 伊藤清 氏

故 加藤敏夫 氏



刊行物

❶「数学」

「数学」は、日本数学会設立の翌年、1947年4月創刊の邦文誌で、現在は年4回発行され、岩波書店から発売されています。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載し、会員には無償配布されています。論説は、専門外の人々にも楽しめ、理解できることを目的にした解説記事として書かれており、その多くは英訳され、アメリカ数学会から「Sugaku Expositions」という雑誌名で発行されています。「数学」の記事は独立行政法人科学技術振興機構（JST）によって順次電子化・無償公開されています。なお、電子版については下記URLを参照下さい。

http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sugaku/-char/ja/

※電子版の作成および公開は岩波書店の承諾を得て行っています。

❷「数学通信」

「数学通信」は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。 定期的な記事としては、会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評などの欄があります。また、その時々の会員にとって有益な話題を特集記事として取り上げています。 このように「数学通信」は、会員への情報提供あるいは会員相互の情報交換の場としての役割を果たしています。

❸「Journal of the Mathematical Society of Japan」

日本数学会欧文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan（JMSJ）は、1948年に創刊された純粋数学の総合誌で、質の高い国際学術誌として数学コミュニティに貢献しています。JMSJは日本数学会の機関誌ですが、会員・非会員を問わず国内外から投稿される研究論文を、第一線の専門家による厳格な査読を経て掲載しており、わが国を代表する数学誌として国際的に広く認知されています。季刊誌で年4回発行され、オンライン公開はProject EuclidおよびJ-STAGEで行っています。

❹「Advanced Studies in Pure Mathematics」

Advanced Studies in Pure Mathematics（ASPM）は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会など重要な研究集会の報告論文集として、現在、日本数学会によって編集、刊行されています。ASPMは、国際研究集会で発表された研究成果に関する研究論文のみならず、理論の創設者によって著わされたサーベイ的な論文なども掲載しており、これから研究を始める若手研究者や、そのテーマの最新の研究成果に関心のある他分野の専門家にとっても、貴重なレファランスとなっています。海外では、アメリカ数学会とWorld Scientific Publishing社によっても販売されており、2017年6月の時点で71巻が刊行されています。

❺「Japanese Journal of Mathematics」

1924年創刊のJapanese Journal of Mathematics（JJM;日本数学誌）は、継続されて刊行されている日本の数学欧文誌の中で最古のものです。日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを「創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌」として位置づけ、2006年4月に刊行を開始いたしました。JJMに投稿された研究総説論文はすべて専門家によって査読され、その後掲載が決定されます。高木レクチャーをもとに書き下ろしされた研究総説論文の最終版も査読後JJMに掲載されます。JJMの出版は日本数学会とSpringer社の協力でなされています。JJMのホームページではアブストラクトの和訳も掲載しています。なお、第1、2シリーズ（1924-1974、1975-2005）はJSTのJournal@rchiveによって電子化・無償公開されています。

❻「MSJ Memoirs・数学メモアール」

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、まとまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。和文メモアールは、大学院生をはじめとする若い研究者に、数学の新しい潮流をわかりやすく紹介するモノグラフです。両シリーズとも、純粋数学・応用数学全般を取り扱います。英文シリーズは海外ではWorld Scientific Publishing社によって販売されています。

学術的会合

高木レクチャー

高木貞治先生（1875-1960）のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。

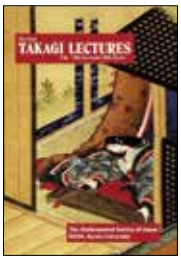
「高木レクチャー」は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーのブックレットは当日に配布され、それをもとに執筆された研究総説論文が、査読を経た後、JJMに掲載されます。

Prof. A. M. Vershik
第15回高木レクチャラー

JJM（日本数学誌）のロゴ

このロゴは2005年のJJM存続の危機のときに、当時の理事であった小林俊行氏がJJMの再建の任にあたって、自らデザインしたもの。大正時代から連綿と続くJJMの伝統を尊重し、さらに、日本から新しい数学を発信するという願いがこめられています。JJMの文字でかたどった富士山は日本発信を象徴しています。



高木ブックレット

Prof. L. Lafforgue
第12回高木レクチャラー

Prof. M. Kontsevich
第5回高木レクチャラー

年会・秋季総合分科会

毎年、春と秋に日本数学会は大会を開きます。約1500名の数学者が集い、研究の発表や討論を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞、同秋季賞、同建部賢弘賞、関孝和賞、出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・各分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。

大会の際には、市民を対象とする、数学の啓蒙的講演会「市民講演会」や、数学と数学教育の役割について意見を交換する「シンポジウム」が開かれます。

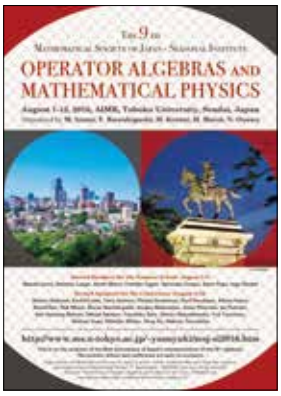
日本数学会季期研究所（MSJ-SI）

日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。

このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会（MSJ-IRI）を2006年まで年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引き継ぎ、日本数学会季期研究所（MSJ-SI）を開催しています。

とくに、アジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、積極的な交流を推進しています。

第5回MSJ-SIでの講演の様子



第9回MSJ-SI 2016年8月1日～8月12日
Operator Algebras and Mathematical Physics
東北大学

第10回MSJ-SI 2017年7月19日～7月28日
Iwasawa 2017
東京大学

市民との接点

市民講演会

日本数学会では、春の年会と秋季総合分科会の際、会場校の近くで、高校生、大学生、教師、会社員など一般の市民の方に、数学の楽しさを実感していただくための、講演会「市民講演会」を開催しています。

以下のウェブページより、過去の講演の講演記録とビデオが利用できます。

URL **http://mathsoc.jp/outreach/shimin-index.html**

都合で利用可能でないものもあります。

社会連携協議会の活動

日本数学会では、産官学が協働して、数学若手研究者の社会への輩出を目的とした社会連携協議会を2014年に設置しております。おもな活動は、「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」、「数学・数理科学のためのキャリアパスセミナー」です。

研究交流会は、若手研究者と企業とのマッチングを進めることを目的として、日本数学会主催、文部科学省、日本応用数理学会、統計数理研究所「数学協働プログラム」、東京大学数物フロンティア・リーディング大学院、明治大学先端数理科学インスティテュート・先端数理科学研究科の共催、日本経済団体連合会の後援により、20社を超える企業と国内の数学・数理科学系大学機関の協力の下で、基調講演、若手研究者のポスター発表、若手研究者が企業ブースを訪問する個別交流を行ってきました。2017年からは九州大学マス・フォア・インダストリ研究所が幹事機関として行う文部科学省委託事業「数学アドバンストイノベーションプラットフォーム（AIMaP）」の支援も受けて行われます。

キャリアパスセミナーは、数学と他分野との融合研究教育を紹介することを目的として日本数学会年会で行っています。2016年は筑波大学、2017年は首都大学東京で行いました。

藤岡おもしろ数学教室

関孝和にゆかりのある群馬県藤岡市と日本数学会とは、1994年度の日本数学会関孝和賞創設以来交流が続いています。その一環として、当地の中学生を対象とした講演会「藤岡おもしろ数学教室」を毎年1回開催しており、数学会からは講師を派遣しています。

2015年度講師
根上生也氏

2015年・2016年
藤岡おもしろ数学教室

2016年度講師
小磯深幸氏

顕彰事業

日本数学会賞　春季賞・秋季賞

日本数学会は1973年に、故彌永昌吉氏からの寄付金を基金として「日本数学会彌永賞」を設け、1987年まで毎年1名、重要な研究成果をあげた当学会の若手研究者に賞を授与してきました。1987年秋に、故秋月康夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金を加えて新たに、日本数学会賞を創立し、従来の彌永賞の趣旨を継承する「春季賞」と、特に優れた業績をあげた当学会の研究者に授与する「秋季賞」を設けました。

その後、故木村俊房氏、故松村英之氏、故丸山滋彌氏、故加藤敏夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金も新たに加わっています。

●2015年度
秋季賞受賞者
藤原耕二氏
「擬ツリー上の群作用の構成」

●2016年度
春季賞受賞者
入谷寛氏
「グロモフ・ウィッテン不変量とミラー対称性の研究」

●2016年度
秋季賞受賞者
森田茂之氏
「写像類群と自由群の外部自己同型群のコホモロジー理論」

●2017年度
春季賞受賞者
阿部知行氏
「数論的D加群の理論とラングランズ対応の研究」

日本数学会代数学賞

広い意味での代数学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。

●2016年度受賞者（左から）
桂田英典氏、藏野和彦氏、齋藤政彦氏

●2017度受賞者（左から）
桂利行氏、金子昌信氏、橋本光靖氏

日本数学会解析学賞

2002年には「日本数学会解析学賞」が設けられました。この賞は、広い意味での解析学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。

●2015年度受賞者（左から）
杉本充氏、竹村彰通氏、田中和永氏

●2016年度受賞者（左から）
片山聡一郎氏、小池茂昭氏、笹本智弘氏

日本数学会幾何学賞

日本数学会幾何学賞は、1987年に幾何学研究者有志からの寄付金を基金として設けられたもので、広い意味での幾何学の発展へ貢献した研究者に授与される賞です。

●2015年度受賞者（左から）
入谷寛氏、佐伯修氏

●2016年度受賞者（左から）
相馬輝彦氏、高山茂晴氏

日本数学会賞建部賢弘特別賞／奨励賞

建部賢弘（1664-1739）は、関孝和の高弟で、独自で三角関数表を作成した人物です。1996年の50周年を記念し、日本数学会賞建部賢弘賞が創設されました。建部賢弘特別賞・奨励賞の2つの賞に分けられ、特別賞は若くして優れた業績をあげられた人の顕彰を、奨励賞は優れた業績で数学研究を始めた若い人達の奨励をそれぞれ目的として制定されたものです。

●2015年度受賞者
（左から）
小野寺有紹氏（特別賞）
本多　正平氏（特別賞）
池田　正弘氏（奨励賞）
牛越惠理佳氏（奨励賞）
側島　基宏氏（奨励賞）
森本　和輝氏（奨励賞）
（右上）
山名　俊介氏（特別賞）

●2016年度受賞者
（2列目左から）
若杉　勇太氏（奨励賞）
北別府　悠氏（奨励賞）
神田　遼氏（奨励賞）
（1列目左から）
野坂　武史氏（特別賞）
阿部　健氏（奨励賞）
阿部　圭宏氏（奨励賞）
大場　貴裕氏（奨励賞）
（右上左から）
生駒　典久氏（特別賞）
山下　真氏（特別賞）

日本数学会関孝和賞

関孝和（?-1708）は、関流数学の創始者であり、鎖国時代に日本独自の数学を発達させた人物です。日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体に対しこれを授与するものです。

関孝和にゆかりのある藤岡市から、賞状と関孝和のブロンズ像が贈られます。

●これまでの受賞者（左から）
1995年 故 谷口豊三郎氏
1996年 故 Prof.F.Hirzebruch
2006年 The Japan-U.S. Mathematics Institute
2007年 Institut des Hautes Études Scientifiques

日本数学会出版賞

2004年度には「日本数学会出版賞」が設けられました。この賞は著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。

●2016年度日本数学会出版賞受賞
秋山仁氏
内村直之 著「古都がはぐくむ現代数学―京大数理解析研につどう人びと」
高橋礼司氏

●2017年度日本数学会出版賞受賞
上智大学数学講究録（上智大学大学院理工学研究科理工学専攻数学領域）
松本幸夫氏
中村義作氏

JMSJ 論文賞

JMSJ論文賞（The JMSJ Outstanding Paper Prize）は、卓越した論文の発表による数学への貢献を顕彰するため日本数学会が2010年に新たに設けた賞です。表彰対象は、授賞年前年の Journal of the Mathematical Society of Japan に掲載された論文のうち、特に優れたもの（3編以内）の著者に贈られます。著者の国籍や、論文が単著・共著であるかは問わず、原則として春の年会時に授賞式を行っています。

●2016年JMSJ論文賞
67巻2号 [Aspects of area formulas by way of Luzin, Radó, and Reichelderfer on metric measure spaces]
By Niko Marola 氏、William P. Ziemer 氏
67巻2号 [Ginibre-type point processes and their asymptotic behavior]
By 白井朋之氏

●2017年JMSJ論文賞
68巻4号 [A proof of the Ohsawa-Takegoshi theorem with sharp estimates]
By Bo Berndtsson 氏、László Lempert 氏

日本数学会応用数学研究奨励賞

日本数学会応用数学研究奨励賞は応用数学分野における研究を奨励し、分野全体の交流・発展を図ることを目的として、2013年9月に日本数学会において設立されました。応用数学に関連する分野において優れた業績をあげた39歳以下の若手研究者に対して、その業績を顕彰するために与える賞です。

●2015年度受賞者（左から）
古谷倫貴氏、後藤田剛氏、物部治徳氏　※村川秀樹氏は海外出張のため欠席

●2016年度受賞者（石渡哲哉氏【左側4番目】と共に）
（左側1番目から3番目まで）剱持智哉氏、西口純矢氏、鈴木章斗氏
（左側5番目から）千葉周也氏、宮武勇登氏

日本数学会の概要

本会の会員は数学の研究者ばかりではなく、教育者、学生などの数学に興味を持つ方々です。また、賛助会員には本会の事業に援助をして下さる法人に加入いただいております。2017年度の会費は次の通りです。

正会員会費…年額18,000円
賛助会員会費…一口年額30,000円

学生や70歳以上の会員には会費の割引制度がございます。

学生割引適用（在学証明書送付者）…年額9,000円
高齢会費適用（在会10年以上で年齢70歳以上、要申込）…年額12,000円

上記のほか、在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対し会費を免除する名誉会員制度、在会25年以上で年齢65歳以上の会員に対する終身会員制度がございます。

会員には邦文誌「数学」（季刊）及び「数学通信」（季刊）を配布しています。また名誉会員を除く会員には希望により欧文誌「Journal of the Mathematical Society of Japan」の冊子体を配布しております（賛助会員には「数学」、「数学通信」及び「Journal of the Mathematical Society of Japan」の冊子体を配布しております）。

外国数学会との交換会員制度があり、現在アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、韓国数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、中華民国数学会、クロアチア数学会及びヨーロッパ数学会と交換協定を結んでいます。会費等詳細につきましては各国数学会へお問い合わせください。

名　　称　一般社団法人／日本数学会（The Mathematical Society of Japan）

事 務 局　〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8　tel.03-3835-3483
（34-8, Taito 1-chome, Taito-ku Tokyo, 110-0016, Japan）

U R L　http://mathsoc.jp/

目　　的　数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与することを目的とする

事　　業
1. 学術的会合の開催
2. 学会誌及び図書の刊行
3. 数学に関する図書及び雑誌の収集整備
4. 数学研究の奨励及び数学に関する業績の顕彰
5. 数学研究者の育成
6. 数学研究の交流及び数学の研究成果の普及
7. 社会における数学基盤の整備
8. 数学の発展及び普及のための調査・研究
9. 国内外の関連学会、諸団体との連絡及び協力
10. その他目的を達成するために必要な事業

学術的会合の予定（詳細は本会ホームページ等でご確認ください）

●2017年度秋季総合分科会
2017年9月11日（月）～9月14日（木）
山形大学

●第20回高木レクチャー
2017年11月4日（土）
東京大学

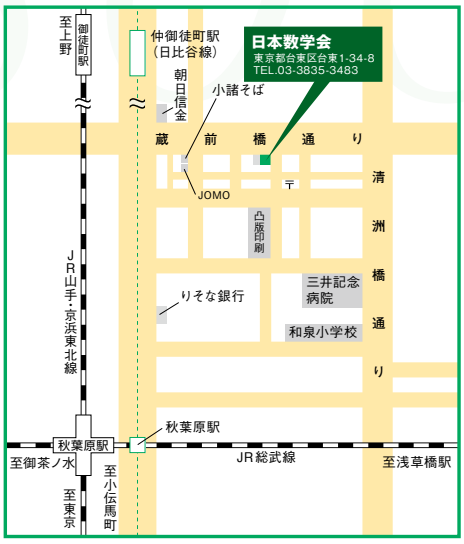
●2018年度年会
2018年3月18日（日）～3月21日（水）
東京大学

●第11回MSJ-SI
The Role of Metrics in the Theory of Partial Differential Equations
2018年7月2日（月）～7月13日（金）
北海道大学

●2018年度秋季総合分科会
2018年9月24日（月）～9月27日（木）
岡山大学

●2018年度高木レクチャー　春と秋に開催予定

●2019年度年会
東京工業大学



事務局所在地

蔵前橋通り南側で、台東一丁目交差点から、
鳥越一丁目の間にあります。

●交通アクセス

JR線
秋葉原駅から徒歩約10分
御徒町駅から徒歩約15分

東京メトロ
日比谷線秋葉原駅から徒歩約8分
日比谷線仲御徒町駅から徒歩約10分
銀座線末広町駅から徒歩約8分
（末広町駅から蔵前橋通りを東の鳥越神社の方向に）

都営地下鉄
大江戸線新御徒町駅から徒歩約7～8分
（駅から南へ竹町公園を経て蔵前橋通りへ）

日本数学会では、理事会を中心に日本における数学にかかわる諸問題を検討し、時に応じ声明を出しています。数学会が出した声明は上記の数学会サイト内のURL（http://mathsoc.jp/proclaim/）から参照できます。

表紙ノッティッドトーラス／川﨑徹郎　2017年9月発行